



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.4

2024年7月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は、恵那県事務所の HP からご覧いただくことができます。 QR コード→



家庭教育学級リーダー研修会 アンケート集計結果・感想 紹介



- ・総参加者数は、286名（保護者125名、先生120名、市関係者、公民館主事等41名）でした。多くの方に本研修会にご参加いただきました。ありがとうございました。
- ・アンケートの回答率は93%でした。その中で Web による回収は、95%でした。多くのみなさんにご協力いただきまして、集計作業が効率化できました。
- ・研修形式は、今回のような形式を支持する回答が88%でした。昨今、研修がオンラインで実施されることもある中で、この研修は、対面型のふれあいを大事にしてきました。参加のしやすさなど、課題もありますが、人と人とのつながりを大切にしているからこそ、この形式がご理解いただけているものと思います。
- ・実践事例については、専門職が多くの事例を紹介する形式が良かったとした回答が70%でした。次に多かったのが、もっと詳しく聞きたかったとした回答で約20%でした。
- ・小グループによるサロン型の研修では、「楽しく交流できた」が77%でした。自由記述でも、肯定的、好意的な回答が多くありました。
- ・自由記述の中には、感想とともにこの会へのご要望などもありました。いただきましたご意見は、東濃地区家庭教育担当者会でも話題にし、次回の研修会に生かせるようにしてまいります。貴重なご意見、ご提言に心より感謝申し上げます。

<感想の紹介> ～小文字は専門職からのお返事です～

こんな貴重な交流の場があるなんて知らなかったです。よい経験をさせていただきました。たくさんの方が真剣に家庭教育について取り組んでいらっしゃることを知り、いつでも助けてもらえるんだという安心を覚えました。
(小学校の保護者)

社会全体で家庭教育を支援している雰囲気を醸成していくことが大切です。親子の孤立化をみんなで防ぎましょう。困ったときには、声をあげましょう。誰かとつながることで、前へ進めることもあります。(専門職)

県と市で家庭教育への思いが分かり、親をサポートすることが子どもへの成長につながるというのは、保護者としてとても共感でき、同意見であったことが、今回の研修でわかってよかったです。今の立場で私にもできることがあれば、いいと思います。(こども園の保護者)

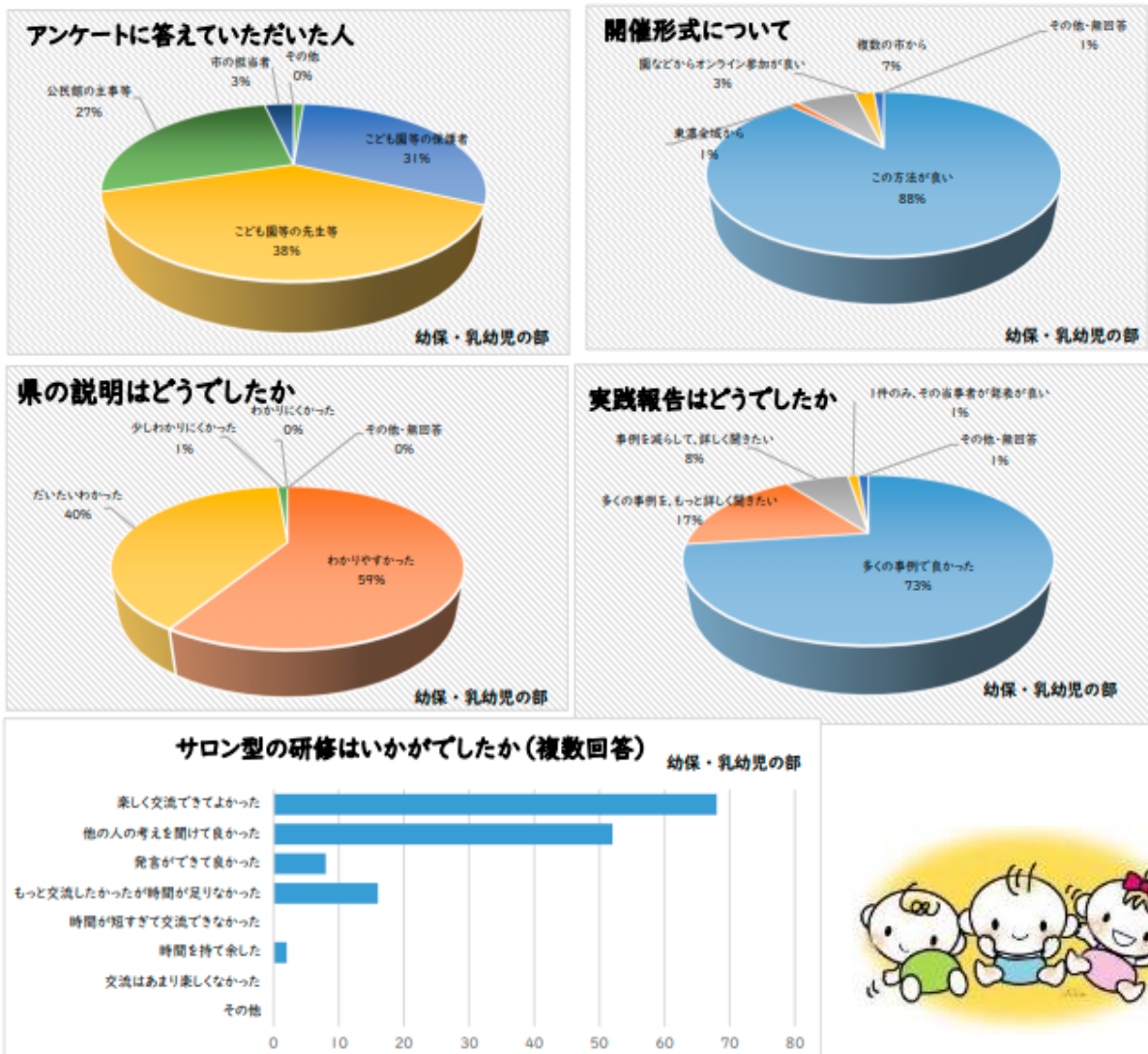
家庭教育推進は、親の不安や、悩みを受け止め合い、子育てを楽しくし、親子を元気づけることをねらいに行います。県、市、園、学校、地域、保護者等それぞれのお立場での活動をお互い支え合いましょう。(専門職)

色々な活動を知ることができると、とても参考になります。その後、学校同士で連絡を取り合うことで、様々な情報を広げていくことができるので、「つながり」を作るという視点でもとても良い機会になると思いました。
(小学校の先生)

「つながりが創る豊かな家庭教育 ～学びのある家庭教育学級をめざして～」のテーマを意識して研修していただけたことがよくわかりました。つながることで、お互いの居場所づくりができ、自己肯定感も高まります。ちょっとしたことにも負けないぞというレジリエンス（回復力）も期待できるのではないのでしょうか。(専門職)

参加種別 集計結果 まとめ

令和6年度 東濃地区家庭教育リーダー研修会（幼保の部） アンケート集計結果



幼保、乳幼児の部 アンケート回答者数 82人

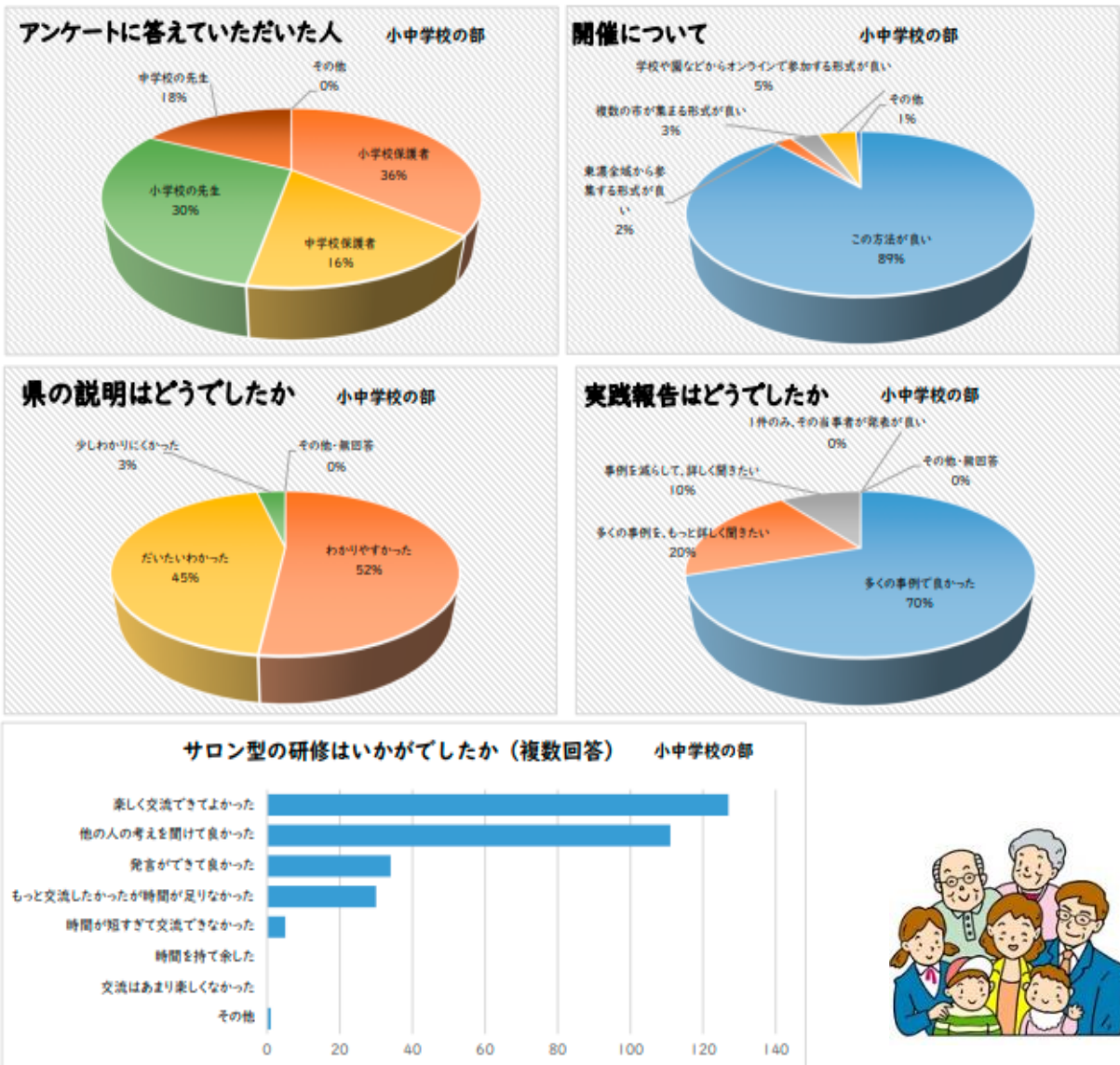
(こども園等保護者 31人、こども園等の先生等 29人、公民館主事等 22人)

幼稚園、保育園の保護者会組織として家庭教育担当の役割を副会長が担ってみえるところがあります。家庭教育学級としての組織が整っていない中でも、活動を推進していただけている園も多くあります。本研修にも、「下の子をあずけてきました。」とか、「仕事が4連勤になってしまった。」などのお話を伺いました。本研修への参加を大切にしてくださっていることが伝わってきました。

アンケートの感想に「幼稚園が全国的に少なくなり、保育園に赤ちゃんから通う子どもがほとんどです。保育園の親さんにも家庭教育学級を広めたいです。」(こども園の先生)とありました。

これは乳幼児期の子育ての中心をにやう「母親」の就労状況とかかわっています。令和6年3月岐阜県「子ども調査」によれば、小学校1年生保護者「母親」が働いているとした割合は73%でした。この割合は学年が上がるにつれて高くなっていきます。

多治見市、土岐市は本研修会に幼稚園の先生、保護者を中心にご参加いただいています。瑞浪市は、幼稚園となっても、園の先生、保護者両方の皆さんで多数ご参加いただいています。中津川市、恵那市は、乳幼児学級を担当している公民館主事の皆さんも多数参加していただき、地域の代表として情報交流していただいています。



小・中学校の部 アンケート回答者数 168人

(小学校保護者 54人、中学校保護者 31人、小学校の先生 52人、中学校の先生 31人)

参加率 小学校98%、中学校97%(その中でも学校職員、保護者両方参加の小、中学校は86%)

小中学校においては、学校の先生、保護者の両方から参加いただけている学校がほとんどです。学校と家庭が連携して教育活動を推進していく上でもたいへん良い状況と受け止めています。

令和6年3月岐阜県「子ども調査」によれば、小学校5年生保護者「母親」が働いているとした割合81.9%、中学2年生では、85.6%でした。父親については、どの学年も90%以上が就労しています。

そんな状況ではありますが、本研修会アンケートのご意見の中に「(参加者を)もう少したくさん各学校から出しても良いのではと思いました。会合が厄介、面倒なだけでなく、自分と家族のことを考える良い体験の場にできたらいいと思いました。」(中学生の保護者)というご意見もいただきました。確かに研修会のメインであるグループ交流は、多くの方の参加があるとお互いの「つながり」ができ、研修の満足度も高まる傾向にあります。ただ、働き方改革の流れから、行事やPTA活動の精選も進めていく必要もあります。どちらの視点も考慮しながら、よりよい研修会にしていく必要があります。

現在、「ワーク・ライフバランス」に力を入れている企業も増えてきているように思います。多くの家庭で、仕事と子育ての両立がなされ、「学び」や、「つながり」のある家庭教育学級で、親子が元気になる家庭教育支援が期待されていると思います。

家庭教育学級リーダー研修会 各市会場の様子・参加者の感想紹介

多治見市、恵那市会場の様子について紹介します。

5月27日 多治見市会場（とうしん学びの丘“エール”）

交流会では、椅子を持ち寄って車座になってお互いの話を聞き合いました。市PTA連合会の家庭教育委員会の皆様も出席され、会を盛り上げていただきました。

多治見市会場 幼保の部 交流会
グループ交流の様子



参加者の声

他園の状況、取り組みを学ぶことができるよい機会となっています。幼稚園の統合、閉園が進んでいますが、子どもの成長、保護者の繋がりのために、園として何を行うべきかを考えながら、今後も活動を進めていきたいと思えます。（園の先生）

多治見市会場 小中の部 交流会
グループ交流の様子



参加者の声

岐阜県の家庭教育への考え方が、よく分かりました。PTA活動がしにくい中、充実した家庭教育学級の活動を工夫していこうと思います。今日は、ありがとうございました。（小学生の先生）

5月31日 恵那市会場（恵那市消防防災センター）

アイスブレイク、交流会のやり方が、プレゼンで示されていて、参加者の交流や、話し合いを支えていました。笑顔やうなずきも多く、楽しい交流している様子が伝わってきました。

恵那市会場 幼保の部 交流会
グループ交流の様子



参加者の声

普段知ることのできない他の園や地域の取り組みが聞けてよかったです。小グループでの交流もいいですが、もう少し他の園の様子も伺えるといいなとも思いました。（園の保護者）

恵那市会場 小中の部 交流会
グループ交流の様子



参加者の声

グループ交流が近隣中学校同士だったので、内容の交流ができてとても参考になりました。（中学生の保護者）
初めての方とも楽しくお話出来る工夫をしてくださりありがとうございました。とても楽しい研修となりました。（小学生の保護者）





瑞浪市立稲津幼稚園 母親学級 体験活動参加型

作陶体験「一輪挿し」

日時 令和6年6月14日(金) 10:00~12:00
 講師 村瀬 昌平さん(陶芸家・瑞浪陶芸協会会長)
 参加者 稲津幼稚園の保護者5名



「一輪挿しを作ってみたかった」子育ての仲間と共に作陶体験



村瀬先生からタタラ作りの説明を受ける参加者

稲津幼稚園の母親委員は、稲津公民館と連携して、母親学級を企画、運営しています。本年度も稲津公民館の小嶋さんと相談して年度当初の計画を立てました。今回が今年度第一回目で作陶体験「一輪挿し作り」を子育ての仲間と行いました。

講師は、村瀬先生(瑞浪陶芸協会会長)でした。稲津で講師をされるのは、久しぶりとおっしゃっていました。今回は、先生の指導で、タタラ作りでの一輪挿し作りに挑戦しました。タタラと呼ばれる板状の土を使って形を作る技法をタタラ作りと言います。ベ

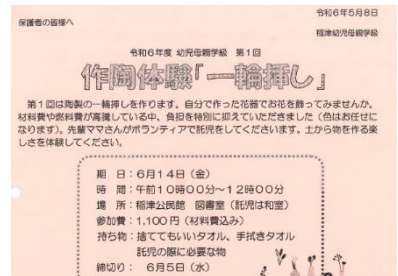
ースとなる一輪挿しの形ができ、模様や取っ手をつける工程に入ったところから、製作者のアイデアが発揮され始めました。それぞれが自分のイメージを膨らませ、創造的な活動を味わう時間となりました。最後には、どの方も個性的な作品を仕上げることができました。「みなさん楽しかったですか。」の問いかけに、「楽しかった!」と即答でした。日頃から家事や子育てに忙しい中、作品作りに集中でき、充実した時間が過ごせました。



笑顔で作品鑑賞

今回、参加者のために託児を担当して下さったのは、同園OBの4人の皆さんでした。

自分たちが、母親学級の活動に安心して参加できたのも、同じように先輩の皆さんが託児を行って下さったからとのこと。完全なボランティアで、後輩ママさんの学びをサポートしてみえました。ステキな伝統ができてあがっていることがわかりました。



案内を公民館の方が作成

【参加された方(母親委員)に感想を伺いました】

- ・希望した作陶体験ができて、大満足です。相談にのっていただいた公民館の方のおかげで、子育ての仲間と楽しい活動ができました。ありがとうございました。
- ・お仕事をしてみえるお母さん方がだんだん増えてきたので、この母親学級(家庭教育学級)への参加者が減ってきています。参加者が少しでも増えるように今年度は、支援センターや小学校と合同で活動することを計画しています。

【ここを学びたい】

- ・主体的に活動
「こんな活動がしたい」という願いを出し合い、その願いのもと地域をよく知っている公民館担当の方が協力、支援して活動を充実させています。
- ・連携のよさ
家庭教育学級担当者にとっては、公民館の支えがあるため、企画運営の負担が軽減されます。公民館も地域(参加者)のニーズに合わせた活動が提供できるなど、どちらにもよい面があります。

- 令和6年度稲津幼稚園
母親学級(計画)
第1回 作陶体験「一輪挿し」
第2回 防災教室
第3回 コーヒーの淹れ方
第4回 未定

↑ 幼稚園、小学校、どちらの家庭教育学級とも連携しているのが稲津公民館です。 ↓

- 令和6年度 稲津小学校
家庭教育学級(計画)
第1回 パンづくり
第2回 スワッグづくり
第3回 しめなわづくり
第4回 ピラティス体験